

2024 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 医療心理科 | | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 演習 |
|---|-------|-----------------|---|------|--------------------------|---------------|
| 科 目 名 | 心理演習 | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 60 (2) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 2年 | | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | |
| 担 当 教 員 | 奥元勝久 | 実務経験と その関連資格 | | | | |
| 《授業科目における学習内容》 企業や福祉サービスなどの現場において心理的な支援とは何かを、多面的に学びを深めます。 本科目は様々なスペシャリストである複数の講師が担当させていただきますが、共通して言えることは傾聴・共感をベースに自己一致して相談者と向き合い、相談者が気づきを得られるためにどうかかわれるのかという点です。 授業では対人関係に必要なコミュニケーションスキルを、グループワークを通して学習していきます。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 試験素点70% 出席評価点20% 平常評価点10% | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 関連資料を配布します。 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 授業で配布されたレジュメや資料を参考に、復習として振り返り(できれば文章化)してください。 疑問や質問、印象に残ったことなどがあれば、次回の授業の時に講師へ伝えてもらえるより深い学びとなるでしょう。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 心理的な支援の現場において、支援者の一言で相手の話が深まるかどうかが大きく左右されます。 授業を通して、そのセンスを磨き意識を持って頂ければと思います。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 箱庭療法① 箱庭療法の砂やフィギアに触れ親しむ | 資料配布 | 講義を通して感じたこと、疑問に思ったことを考える | |
| | | 各コマにおける授業予定 | グループで箱庭を用いた作品を作ってみる。 | | | |
| 第2回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | アドラー心理学+ポジティブ心理学① 他者を肯定的にカウンセリングサポートしていく技法を習得する。 | 資料配布 | 講義を通して感じたこと、疑問に思ったことを考える | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 勇気付けをテーマに、アドラー心理学とポジティブ心理学を統合したカウンセリング技術をワークを通して学ぶ。 | | | |
| 第3回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 交流分析の理解と実践① 自己理解 | 資料配布 | 講義を通して感じたこと、疑問に思ったことを考える | |
| | | 各コマにおける授業予定 | グループワークを通して自我状態を理解し、エゴグラムを作成する | | | |
| 第4回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 伝え返しの重要性を知り実践できるようになる、キャリア相談における見立てのポイントを身につけ論述問題を解けるようになる。 | 資料配布 | 講義を通して感じたこと、疑問に思ったことを考える | |
| | | 各コマにおける授業予定 | キャリア相談の実践① キャリアコンサルタントの論述問題を題材にグループワークを実施する。 | | | |
| 第5回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 交流分析の理解と実践② 自己理解と自己変容 | 資料配布 | 講義を通して感じたこと、疑問に思ったことを考える | |
| | | 各コマにおける授業予定 | エゴグラムの分析法を学び自分のエゴグラムを分析する。自己変容の仕方を事例を通して理解し「なりたい自分」を具体化する。その後、気づきをグループでシェアする。 | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|-------------|--|---|------|--------------------------|
| 第6回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 交流分析の理解と実践③ 対話パターンの理解 | 資料配布 | 講義を通して感じたこと、疑問に思ったことを考える |
| | 各コマにおける授業予定 | 対話のパターンを理解し自分自身の対話パターンを分析する。グループワークを通じてより良い対話のパターンを考える。 | | | |
| 第7回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 交流分析の理解と実践④ ストローク(存在認知)の重要性に気づく | 資料配布 | 講義を通して感じたこと、疑問に思ったことを考える |
| | 各コマにおける授業予定 | ストロークの種類を学ぶ。人間関係改善の為、5つの間違っただストロークの仕方を知る。グループワークによって自分のストローク授受の改善法を考える。 | | | |
| 第8回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 交流分析の理解と実践⑤ 自分の生き方の基になっている考え方に気づく・より良い時間の使い方を考える | 資料配布 | 講義を通して感じたこと、疑問に思ったことを考える |
| | 各コマにおける授業予定 | 自分の生き方の基になっている考え方をチェックリストで振り返り、より良く生きる為に改善法を考える。時間の過ごし方のカテゴリーを知り、有益な時間を過ごす方法を考える。 | | | |
| 第9回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 箱庭療法② 箱庭療法を体験してみる 1 | 資料配布 | 講義を通して感じたこと、疑問に思ったことを考える |
| | 各コマにおける授業予定 | 一人一人箱庭を置いてみる。 | | | |
| 第10回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | アドラー心理学+ポジティブ心理学② 他者を肯定的にカウンセリングサポートしていく技法を習得する。 | 資料配布 | 講義を通して感じたこと、疑問に思ったことを考える |
| | 各コマにおける授業予定 | 勇気付けをテーマに、アドラー心理学とポジティブ心理学を統合したカウンセリング技術をワークを通して学ぶ。 | | | |
| 第11回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 交流分析の理解と実践⑥ 心理ゲーム(こじれた対人関係)に気づく | 資料配布 | 講義を通して感じたこと、疑問に思ったことを考える |
| | 各コマにおける授業予定 | 心理ゲームを学び、こじれた対人関係から抜け出す方法をグループで考察する。 | | | |
| 第12回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 他者の話に耳を傾けることを実践でできるようになる、他者を否定することなく自分の思いや考えを主張することができるようになる。 | 資料配布 | 講義を通して感じたこと、疑問に思ったことを考える |
| | 各コマにおける授業予定 | キャリア相談の実践② コンセンサスワークを通して傾聴とアサーションを実践し、自己理解(価値観や興味)を深める。また採用担当者を疑似体験することによりリフレーミングを体験する。 | | | |
| 第13回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 箱庭療法③ 箱庭療法を体験してみる 2 | 資料配布 | 講義を通して感じたこと、疑問に思ったことを考える |
| | 各コマにおける授業予定 | 一人一人箱庭を置いてみる。 | | | |
| 第14回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | カラーカードワークを被験者と支援者の両面から体現する事で、色を通して自己探索と共に傾聴の基本的態度を学ぶ | 資料配布 | 講義を通して感じたこと、疑問に思ったことを考える |
| | 各コマにおける授業予定 | 【カラーカード連想ワーク(ナラティブセラピー)①】 色の持つ力、記憶と感情の関係、ナラティブセラピーとは、について理解する。 | | | |
| 第15回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 交流分析の理解と実践⑦ 自分の生き癖に気づく | 資料配布 | 講義を通して感じたこと、疑問に思ったことを考える |
| | 各コマにおける授業予定 | チェックリストを使って自分を苦しめる生き癖に気づく。グループワークを通じて改善法を考察する。 | | | |

2024 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 医療心理科 | | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 演習 |
|---|-------|-----------------|--|------|--------------------------|---------------|
| 科 目 名 | 心理演習 | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 60 (2) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 2年 | | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | |
| 担 当 教 員 | 奥元勝久 | 実務経験と その関連資格 | | | | |
| <p>《授業科目における学習内容》</p> <p>企業や福祉サービスなどの現場において心理的な支援とは何かを、多面的に学びを深めます。 本科目は様々なスペシャリストである複数の講師が担当させていただきますが、共通して言えることは傾聴・共感をベースに自己一致して相談者と向き合い、相談者が気づきを得られるためにどうかかわれるのかという点です。 授業では対人関係に必要なコミュニケーションスキルを、グループワークを通して学習していきます。</p> | | | | | | |
| <p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>試験素点70% 出席評価点20% 平常評価点10%</p> | | | | | | |
| <p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>関連資料を配布します。</p> | | | | | | |
| <p>《授業外における学習方法》</p> <p>授業で配布されたレジュメや資料を参考に、復習として振り返り(できれば文章化)してください。 疑問や質問、印象に残ったことなどがあれば、次回の授業の時に講師へ伝えてもらえるより深い学びとなるでしょう。</p> | | | | | | |
| <p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>心理的な支援の現場において、支援者の一言で相手の話が深まるかどうかが大きく左右されます。 授業を通して、そのセンスを磨き意識を持って頂ければと思います。</p> | | | | | | |
| 授業の 方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第16回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | アロマテラピーと心と体① アロマテラピーってなに？ 植物療法の中のアロマテラピーを知る | 資料配布 | 講義を通して感じたこと、疑問に思ったことを考える | |
| | | 各コマにおける授業予定 | (一社)日本アロマ環境協会:AEAJのリーフレットから、アロマテラピーの基本を学ぶ(歴史・メカニズム・精油について・精油の選び方・楽しみ方・禁忌や注意点)。香り体験1。実習:アロマハンドクリーム作り | | | |
| 第17回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 箱庭療法④ 箱庭療法を体験してみる 3 | 資料配布 | 講義を通して感じたこと、疑問に思ったことを考える | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 一人一人箱庭を置いてみる。 | | | |
| 第18回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | アロマテラピーと心と体② アロマテラピーの心身への働きを知る | 資料配布 | 講義を通して感じたこと、疑問に思ったことを考える | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 講師作成の関連資料から、精油が脳・解剖生理学へ作用する経緯:ルートを学ぶ(鼻・嗅覚刺激・大脳辺縁系・視床下部・自律神経系・免疫系・内分泌系・経皮吸収)。香り体験2。実習:アロマシャンプー作り | | | |
| 第19回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 自分の見方の枠に気づき、より多面的な視点でクライアントを理解し、クライアント理解の幅を広げる。 | 資料配布 | 講義を通して感じたこと、疑問に思ったことを考える | |
| | | 各コマにおける授業予定 | カウンセリングの実践① クライアントの話をどんなふうに取り受け、どう理解するのか、事例を通して考え、グループでシェアをして自分の傾向をつかむ。 | | | |
| 第20回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | カラーカードワークを被験者と支援者の両面から体現する事で、色を通して自己探索と共に傾聴の基本的態度を学ぶ | 資料配布 | 講義を通して感じたこと、疑問に思ったことを考える | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 【カラーカード連想ワーク(ナラティブセラピー)② 実習編】 チームに分かれ各自テーマに合わせたカラーカードを選ぶ。色を通して言語化する事で自己探索を行うと共に、シェアリングで感情の共有、更なる感動と意味の再構築を導く。 | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|--|------|--------------------------|
| 第21回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 箱庭療法⑤ 箱庭療法概論 1 | 資料配布 | 講義を通して感じたこと、疑問に思ったことを考える |
| | | 各コマにおける授業予定 | 箱庭療法の理論を学び、実際に自分たちの置いた箱庭を分析してみる。 | | |
| 第22回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 色の持つ「機能的役割」と「感性的な役割」を知り、色には人の感情を動かす力がある事を感じる | 資料配布 | 講義を通して感じたこと、疑問に思ったことを考える |
| | | 各コマにおける授業予定 | 【 色彩心理① 】 色の機能的役割と感性的(情緒的)な役割について具体的な事例を通して理解する | | |
| 第23回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 応答の意味や作用を把握し、色々なアプローチがあるのを実感する中で、カウンセラーとしての応答の幅を広げる。 | 資料配布 | 講義を通して感じたこと、疑問に思ったことを考える |
| | | 各コマにおける授業予定 | カウンセリングの実践 ② 6つの要素に分けられる応答について、事例を用いてそれぞれの要素に対応する応答を具体的につかみ、自分の応答スタイルに気づく。 | | |
| 第24回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | アロマテラピーと心と体③ アロマテラピーとメディカルハーブを知る | 資料配布 | 講義を通して感じたこと、疑問に思ったことを考える |
| | | 各コマにおける授業予定 | 講師作成の関連資料から、薬草を使ったもうひとつの植物療法を学ぶ(油溶性と水溶性・作用の違い・活用方法)。グループワーク:講師オリジナルブレンドのハーブティーを飲み、感想や気づきを話し合う。実習:アロマ入浴剤作り | | |
| 第25回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | カウンセラーとしての自己点検 自分の価値観を点検し、自己理解を深める。 | 資料配布 | 講義を通して感じたこと、疑問に思ったことを考える |
| | | 各コマにおける授業予定 | カウンセリングの実践 ③ さまざまな人と接する時に働いている自分の判断基準(価値観)を事例を通して点検し、グループワークでメンバーとの違いを体験する。 | | |
| 第26回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 色の持つ「機能的役割」と「感性的な役割」を知り、色には人の感情を動かす力がある事を感じる | 資料配布 | 講義を通して感じたこと、疑問に思ったことを考える |
| | | 各コマにおける授業予定 | 【 色彩心理② 実習編 】 日常における感覚について、各自がカラーカードで配色を作り、イメージと色を結び付けると共に更にイメージを膨らます | | |
| 第27回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 箱庭療法⑥ 箱庭療法概論 2 | 資料配布 | 講義を通して感じたこと、疑問に思ったことを考える |
| | | 各コマにおける授業予定 | 箱庭療法の理論を学び、実際に自分たちの置いた箱庭を分析してみる。 | | |
| 第28回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | アロマテラピーと心と体④ アロマテラピーのさらなる活用法を知る 全3回の振り返りと総括 | 資料配布 | 講義を通して感じたこと、疑問に思ったことを考える |
| | | 各コマにおける授業予定 | (一社)日本アロマ環境協会:AEAJのリーフレットから、自分のためだけでなく、周りの人への安心安全なアロマテラピーの活用法を学ぶ(ハンドトリートメント・精油のブレnding)。実習:自分へのクリスマスプレゼント アロマルームスプレー作り | | |
| 第29回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | キャリアカウンセリングの過程を知り、就労支援を実践できるようになる。 | 資料配布 | 講義を通して感じたこと、疑問に思ったことを考える |
| | | 各コマにおける授業予定 | キャリア相談の実践③ ロールプレイを実施し、キャリア相談を疑似体験する。 | | |
| 第30回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 後期試験 | 資料配布 | 講義を通して感じたこと、疑問に思ったことを考える |
| | | 各コマにおける授業予定 | 筆記試験の実施 | | |